【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】令和4年10月26日(2022.10.26)

【国際公開番号】WO2021/181596
【出願番号】特願2022-507104(P2022-507104)
【国際特許分類】
Ｈ０２Ｇ　3/04(2006.01)
Ｆ１６Ｌ 57/00(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０２Ｇ　3/04　０８１
Ｆ１６Ｌ 57/00　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和4年8月18日(2022.8.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
分岐位置からそれぞれ異なる向きに延びる３つ以上の電線部と、
弾性部材であり、前記３つ以上の電線部の基端部を覆う保持部材と、
を備え、
前記保持部材はそれぞれの基端部においてつながった３つ以上の筒状部を含み、
前記３つ以上の筒状部のうち１つ又は隣り合う２つの筒状部は全長にわたるスリットが片側に形成されたベース筒状部であり、残りの筒状部は全長にわたるスリットが両側に形成された分割筒状部であり、
前記保持部材は固定部材を介して閉じられており、
前記３つ以上の筒状部のうちの少なくとも１つの筒状部は、前記スリットによって分離された部分同士が径方向に重なることによって小さくされている、配線部材。
【請求項２】
請求項１に記載の配線部材であって、
前記３つ以上の電線部のうち少なくとも１つの電線部に設けられた保護部材をさらに備える、配線部材。
【請求項３】
請求項２に記載の配線部材であって、
前記保護部材は筒状に成形された部材である、配線部材。
【請求項４】
請求項２又は請求項３に記載の配線部材であって、
前記保護部材の一端部が前記筒状部に覆われている、配線部材。
【請求項５】
請求項２又は請求項３に記載の配線部材であって、
前記保護部材の一端部が前記筒状部を覆っている、配線部材。
【請求項６】
請求項２又は請求項３に記載の配線部材であって、
前記保護部材の一端部が前記電線部の長手方向に沿って前記筒状部の外側に設けられている、配線部材。
【請求項７】

請求項１から請求項６のいずれか１項に記載の配線部材であって、
前記固定部材は粘着テープであり、
前記粘着テープは、前記スリットを全体にわたって塞いでいる、配線部材。
【請求項８】
請求項１から請求項７のいずれか１項に記載の配線部材であって、
前記３つ以上の電線部のうち１つの電線部は幹線であり、残りの電線部は前記幹線から分岐する枝線であり、
前記幹線は複数の電線と前記複数の電線を覆うシースとを含むケーブルであり、
前記シースの端部が前記筒状部に覆われている、配線部材。
【請求項９】
請求項８に記載の配線部材であって、
前記３つ以上の電線部は３つの電線部であり、
２つの前記枝線が収容される２つの筒状部が前記ベース筒状部である、配線部材。
【請求項１０】
請求項９に記載の配線部材であって、
２つの前記ベース筒状部のなす角が、前記幹線が収容される前記分割筒状部と２つの前記ベース筒状部それぞれとがなす角以下である、配線部材。
【請求項１１】
請求項１から請求項１０のいずれか１項に記載の配線部材であって、
前記３つ以上の筒状部がすべて同じ太さである、配線部材。
【請求項１２】
請求項１から請求項１１のいずれか１項に記載の配線部材であって、
前記保持部材は複数の電線に取付けられる前の状態で前記３つ以上の電線部を収容するために前記ベース筒状部を起点に開閉が可能であり、
前記固定部材は前記保持部材を閉じた姿勢に保持する、配線部材。
【請求項１３】
請求項７に記載の配線部材であって、
前記粘着テープは、先に巻かれた部分に対して後に巻かれた部分の一部が重なるように、らせん状に巻かれている、配線部材。
【請求項１４】
弾性材料による成形品であり、それぞれの基端部においてつながった３つ以上の筒状部を備え、
前記３つ以上の筒状部のうち１つ又は隣り合う２つの筒状部は全長にわたるスリットが片側に形成されたベース筒状部であり、残りの筒状部は全長にわたるスリットが両側に形成された分割筒状部であり、
前記ベース筒状部を起点に開閉が可能である、保持部材。